

# おおふな

2024年8月6日 No.3

発行者:小林 洋一 編集:情宣部

J R 東 労 組

大 船 支 部

## 大船支部第28回定期大会開催!!!

### 大会発言(要旨)



#### 【不祥事について】

●不祥事は許されない。眠気防止などあり得ない。●一方で1週間で懲戒解雇。会社の自己保身丸出しでみっともない。●多くの人たちの命を預かっている。何の罪もない人たちの命が奪われかねない事象。許されない。●危機意識がなすすぎる。●分会で見解を作成。今後の職場集会でも議論していく。●情報が回るのが遅い。●不祥事はどうすることもできない。

#### 【東労組運動について】

●かなり部会組合員の減少、だからといって運動は止められない。心の中でおかしいと思っている人はいる。その人たちの駆け込み寺になる。●自職場の課題について団体交渉を行った。職場の仲間からは「労働組合が無ければ交渉はできなかった。労働組合のありがたさを感じた」と語っていた。●分会で「謎解きレク」を開催。時に仲間で協力し合い、時に楽しい1日を過ごした。●支部事務所に組合員がもっと気軽に来れるようにしたいという役員の発案から「冷や麦会」を開催。「こういうのが良いよね」と組合員からも感想が出された。●久々に歓迎会を開催。多くの組合員で盛り上がった。

#### 【組織強化・拡大について】

●組合に入っていて良かったと思える瞬間がある。そうしたことを伝えていくことが拡大にもつながる。●未加入者と食事に行っている。東労組が勝ち取ってきたこと等を訴え、過半数選挙で協力してくれる人たちをつくってきた。●分会レクの情報を掲示したところ、テンポリースタッフや未加入者から「楽しそう」「謎解きやったんですね」と多くの反応があった。仕事のことばかりでない、楽しいこともやっていることを伝えられた。●他職場との合同レクを開催し、未加入者も参加。来れなかった未加入者もいたが、「次回はぜひ」と言ってくれた。●退職される組合員との関係を絶やさないために、拘って関わり続けた。その結果、エルダ一組合員として継続加入を決意してくれた。

#### 【24春闘について】

●メッセージ行動はほぼ全員貫徹。地本春闘総決起集会にも分会から多くの組合員が結集した。●回答には怒りと悔しさを感じる。●夏季一時金では組合員とともにアンケートに取り組んできた。しかしそれでも会社は支払わない。今後の年末手当のたたかいに繋げていく。

#### 【安全再確立に向けて】

●分会で原因究明委員会を開催。議論した内容を全体に広めたり、他の組合員にも原究に参加してもらおうということが弱い部分。継続して開催していく。●「生見尾踏切 安全確認が取れていない状態で抑止解除した事象」について、会社速報は派出社員に一方的に責任を押し付けているように感じた。分会で原因究明委員会を開催。現地踏査も行った。何かあれば原因究明を行っていくという体制ができてきている。

#### 【職場での問題や課題について】

●「融合と連携」で乗務員も1時間程度駅に行くが、現金も扱えず、車イスをご利用されるお客さまの補助もできない。改札で案内するだけ。何をもって「融合と連携」なのか。●その中で不当転勤。今の施策が本当にお客さまのためになっているのか疑問。職場で穴があいたところに人が行って埋めているだけ。●今の仕事が賃金に見合っていない。●未だによく仕事や業務を理解していない状態で作業をせざるを得ない場合もある。●除草も赤字だからと自分たちでやってきた。赤字になって賃金上げないのなら除草も委託に戻すべき。●除草作業のため作業着を会社に要求したが、自分のパートでは貰えないと言われた。●いつまで希望していない職場にいることになるのか。会社との議論もお願いしたい。●JR東日本の根底は鉄道。その鉄道にかけた費用が削られている。もっと鉄道にお金をかけるべき。●「のもの」をやっているが、利益はわずか。「のもの」のために超勤している社員もいて、その超勤分で利益も吹っ飛んでいる。●「のもの」を担当している社員からも不満の声が出ている。●改札口が無人でテンポリースタッフが対応。そのためサポートコールシステムの件数は少ないが、逆に改札に人が必要だということを証明している。お客さまにとっては明らかに不便。●ダイヤ改では終電ギリギリまで分会案を作成し、会社に示してきた。●在来と特急の混み運用、ミス誘発するような状況のなか、それでも事故を起こさないようにやっているが、疲労度はみんなMAX。●乗務の合間の休憩場所が遠く、ずっと歩きっぱなし。途中にあるトイレの中にパイプイスを1個で良いから置いてくれと会社に行ったが、それすらも会社はやらない。●全く希望していない異動で今の職場に。会社に対して不満はある。現場長に相談もしたが変わらなかった。●久々の駅業務、管理者からは「焦ることない」と言われたが、本人に確認もなくいきなり見習いを外された。●乗務員から営業職場へ異動した人への教育体制が厚くない。もっと手厚くするべき。●会社幹部に若手社員が辞めていく現状をどう思うか聞いたところ「会社としても問題視していて、さまざま取り組みを考えている」とのことだったが、それでいて今回のベアや夏季手当の回答。本当に若い人のことを考えて回答したのかと思う。●多くの社員が超勤せざるを得ない状況。●「融合と連携」というが、そこで働いている人で回している状況。●会社から「派出体制の見直し」が提案された。現場の仲間から多くの不安の声が出ている。●事前にトライアルを行ったが、大きな乱れがなく問題なく終わったと会社は言うが、乱れていなければ問題なく終わるのは当然。こんなトライアルでは意味がない。●「車セ本区に戻り若手社員の育成をしてもらいたい」と言われたのに、異動先は全く違う箇所。